

きのくにチャレンジカップ実施要項

1 目 的

本大会は、児童が各種スポーツ種目に挑戦した記録を通じて運動への動機付けを図るとともに、学校や学級間の交流を促進することを目的とする。また、Microsoft Teams を活用したウェブ会議システムにより大会を開催し、双方向の交流を行えるようにする。

2 実施日時

第1回：令和8年9月24日（木） 13時10分～13時30分

3 対 象

小学校、義務教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部）の児童

4 種 目

みんなで8の字とび

5 実施方法

各学校・学級単位で体育館において上記種目を実施し、その様子を Teams で配信・共有する。各参加校は、配信用の端末（カメラ・マイク付）を準備し、実施中は適切なカメラ位置で児童の様子が確認できるよう配慮する。

6 日 程

12:30	13:10	13:15	13:20	13:25	13:30
受付	説明	練習	測定	結果集計	

※ 参加チーム数により、測定回数を変更する場合がございます。

7 きのくにチャレンジカップ特別ルール

(1) 準備

長なわ・ストップウォッチ・電卓（※1）

※1 複数グループの測定値の平均値を記録としたい場合に電卓が必要です。

(2) 方法

なわを回した状態から、計時係の「はじめ」の合図で跳び始める。

最初に並んだ順番どおりに跳ぶ。

3分経過時点で、計時係は「終わり」の合図をし、跳んだ回数を計測する。

3分間以内であれば、途中で失敗しても続けてもよい。

なわが体にかかって跳べなかったり、跳ばずになわを通り抜けたったりした場合の回数は跳んだ回数には含めない。

(3) グループ編成

学級で1つのグループ、もしくは学級をいくつかのグループに分けて行う。

人数が少ない学級は、異学年の児童を加えて行ってもよい。

(4) 記録と参加人数

3分間でなわを跳んだ回数を記録とする。

各グループで取り組んだ結果を学級での1つの記録としたい場合は、各グループの跳んだ回数の合計をグループ数で割り、その平均回数を記録とすることができる。また、平均回数が小数となった場合は、小数第2位までとする。

学年に応じて測定記録に下記の回数を加算(※2)する。ただし、測定記録と加算回数の合計は300回を上限とする。なお、加算後同点の場合は、測定記録の良いチームを上位とする。

学年	加算回数
1年生・特別支援1年生	140回
2年生・特別支援2年生	130回
3年生・特別支援3年生	80回
4年生・特別支援4年生	60回
5年生・特別支援5年生	20回
6年生・特別支援6年生	0回

例

学年	測定回数+加算回数=合計	順位
1年生	20回+140回=160回	4位
3年生	290回+ <u>10回</u> =300回	<u>2位</u>
4年生	340回+ <u>0回</u> =340回	1位
5年生	280回+20回=300回	<u>3位</u>

※2加算回数は、昨年度チャレンジランキングの中央値から算出しています。

(5) 実施上の注意等

1回旋ごとに1人または数人で跳んでもよいが、跳んだ回数は1回旋を1回とし、跳んだ人数とはしない。

記録挑戦の際は、指導者の立会いのもと実施し、計時係は指導者が行う。

8 申込み方法

(1) 市町村立学校

別紙様式1により当該市町村所管課に申し込んでください。

市町村所管課は参加申込書を取りまとめ、下記申込み先へ提出してください。

(2) 県立学校及び国立学校

別紙様式1により下記申込み先へ直接申し込んでください。

(3) 私立学校

別紙様式1により(県)企画政策局文化学術課へ直接申し込んでください。

(4) 申込先

e-mail:yamada_m0059@pref.wakayama.lg.jp

(5) 申込期限 令和8年9月9日(水)

(6) 問合せ先

和歌山県教育庁 学校教育局 健康体育課 学校体育班(山田)まで

T E L 073-441-3700

9 その他

(1) 1位の学校(チーム)には、賞状と記念品を贈呈します。

(2) 第2回きのくにチャレンジカップについて

きのくにチャレンジランキング団体部門「みんなで8の字とび」の登録チームの中から上記の表に当てはめ、上位チームから出場チームを選抜し、令和9年2月下旬頃に決勝戦を行う。